

わくわく防災減災

生徒の自助力を高めて、
地域と連携する私立学校のモデルケースを目指す

2018年度
防災教育
チャレンジプラン
最終報告会
2019/2/23



日黒星美学園中学高等学校

(世田谷区／私立・女子校)



防災訓練



授業(プレゼンの様子)



～中間報告会～

- ◇リニューアル防災訓練(6月)
- ◇中3社会「防災化」授業(6月)
一母子避難所について考えよう!
- ◇第14回被災地ボランティア研修
@宮城県(7月)
- ◇地域の親子向け防災イベント
(防災エンスショー)の開催(9月)

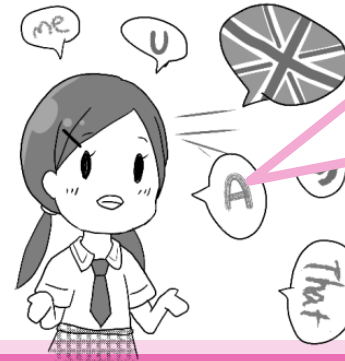
被災地ボランティア研修@宮城県



←地域向けイベント



地域の親子が
たくさん来てく
れました!



東松島市では、生徒のアイ
ディアが詰まったマンホー
ルトイレの組み立てに
チャレンジしました!

【2018年度具体的活動一覧】

授 業	(1)防災化授業(中3:4～6月) (2)防災社会科見学(中1:10～11月) (3)横断的防災教育(中1:1～2月)
訓 練	(4)リニューアル防災訓練(全校:6月)+ミニ避難訓練(9月始業式) (5)救命講習(希望者:9月) (6)留学生と一緒に(中3:1月)
被災地	(7)修学旅行での防災学習@熊本県(高2:5月) (8)(9)第14・15回被災地ボランティア研修@宮城県(希望者:7・3月) (10)3.11追悼イベントのための作品作成(書道部:12～1月)
トイレ	(11)～(21)携帯トイレ作成研修会やトイレ問題の講演会講師(希望者:通年) (22)マンホールトイレ組み立て@東松島(希望者:7月)
生徒発信	(23)(24)取材 (25)～(27)掲示・配布 (28)(29)活動発表・報告
教職員	(30)本校教職員対象(8月) (31)私立学校教職員対象(11月)
地 域	(32)防災エンスショー(9月) (福祉避難所(母子)のマニュアル作成への協力(通年)、母子避難所訓練への参加(12月))

防災の研修会等で 得られた情報

- ◇先生が、「しなければならない」こと
- ◇完成された(?)事例
- ◇実は、困っている先生が多い



結局、何をどうしたら良いか分からない。
知いたい情報にアクセスできない。

分からなかったこと
＝本当は知りたかったこと

- ◎東京の女子中高生の
防災意識を飛躍的に高める
方法(全校生徒一人残らず!!)
- ◎「しなければならない」
ことを、実現する手法
(イチから知りたい!)
- ◎明日から実践できること

「逆転の発想」で取り組む防災教育

従来の視点・主張

防災は、大事だからやらなければならないこと。
真剣に真面目に防災の大切さを訴える。

過去の災害が風化している。生徒が防災に関心を持たない。(防災訓練も真面目にやらない。)

生徒は、防災を知らないので教員が、教えなければならない。でも・・・

何を教えたらいいか、分からない。
先生が「不安、よく分からないなんて言えない。」

先生は、生徒を守らなければならない。

災害時のトイレに女子中高生は、抵抗感を持つ。

決められたカリキュラムがあって、防災教育の時間がとれない。

「東京の私立女子校で防災って珍しいですね。」

逆転の発想

防災は、楽しいからやりたくてたまらないこと。
ニコニコしながら、楽しそうに防災と言い続ける。

私たちは日々、次の災害に近づいている。
「私たちは未来の被災者」という自覚を持つ。

生徒に教えたいことを、生徒自身に教えさせる、
「生徒『が』教える防災教育」が効果的。

教えるのではなく、生徒から「防災選択肢」を引き出す。
「大人も困っている」というシチュエーションの方が、
生徒は俄然やる気を出す。

目の前の生徒が、「人生の中で『学校で被災できる確率』」は低い。「防災依存心」を育てない。

災害時のトイレ問題は、生徒が活躍できる社会課題である。活動を通じて、多くの人を救おう！

普段の授業や生活の中に防災を入れる(防災化)。

防災は、生徒が成長するチャンスがたくさん！

◎中間報告会の補足

「生徒が車椅子のおばあちゃんになってから被災しても思い出して生き残れる」防災教育を目指す。



これまでの災害で繰り返されてきた問題を事例から抽出し、「学びの社会還元」を通じて、生徒たちの中に定着させる。

0才
10才
20才
30才
40才
50才
60才
70才
80才

生徒が学校にいるのは、
主に、平日の日中
中高6年間だけ
=人生の数%



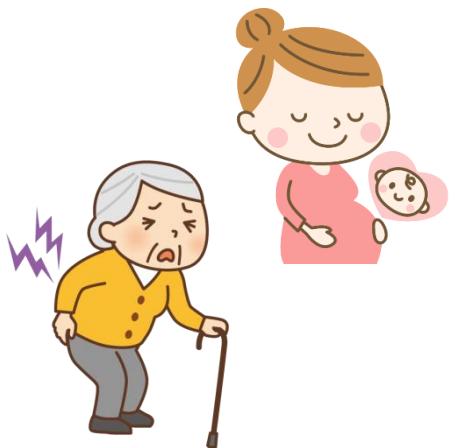
長期的視野・
多角的視点での
防災教育が必要！

生徒の人生の中で
「学校で被災できる確率」は低い

ライフステージの中で
様々な災害弱者
になる可能性



実は、支援する側になる回数の方が多い



事例) 熊本地震
直接死: 50人
関連死: 200人以上



その時、
助かる教育」
だけでいいの？

「先生は生徒を守ります！」は本当か？

⇒ 卒業しても我々教員にとって、
生徒は生徒です。

ならば、**長期的な視野**で、「自分で
助かる」生徒にすべきなのは？

生徒の防災意識を継続し、災害を直視させるには「**わくわく感**」が鍵に

問. 防災教育を行う順に並べてください。

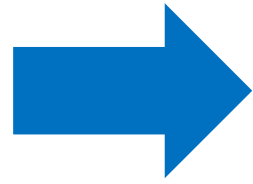
A: 防災について生徒が発表する

B: 知識を生徒に教える

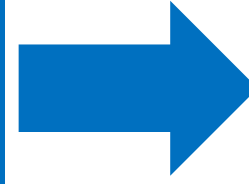
C: 生徒自身が防災を考える

(C) \Rightarrow (A) \Rightarrow (B)

防災を
考える



アイデア
を発表する



知識を
学ぶ

- ① 防災に対する抵抗感(心のバリア)を無くす
- ② 「私が」という自助意識・主体性を育てる

防災に対する開かれた心
学びに向かう姿勢の変化

防災教育 授業

授業者は、防災を教えよう
という意識ではなく、**ヒント**
を与える、新しい視点を持
たせるという意識を持つ。

ミッションの 提示

「生徒に教えたい」とを敢
えて、**ミッションとして生徒**
に与える。わくわく考えた
くなる**ミッション**を考える。

チーム活動 ミッション！

生徒たちならではの発想を
活かした発表ができるよう
に**チーム活動を設定する**。

プレゼン テーション

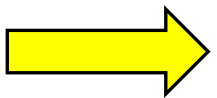
自分たちのアイデアが、
実際の社会の中で役立つ経
験をする。（役立つかもしれ
ないという実感を持つ。）

「防災」と聞いて感じる気持ち（@中1最初の授業）

怖い、正直めんどくさい、つまらない、災害が起こったらみんなどうなるんだろう・・・、悲しい気持ちになる、後回し、興味がない、不安、やらないといけない、なんとかなるっしょ！と思う、あまり想像がつかない、何の防災グッズが役に立つか分からない、**つらい時間、**やらなきゃいけないけどよく分からない、くらい、あまりよくないもの、**防災＝災害というイメージ**が強いのであまり嬉しくない・・・

⇒防災に対して「マイナスのイメージ」を持つ

授業(2コマ)



講演(1コマ)

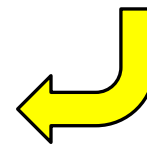


授業者は、教えるではなく「ヒントを与える」という意識を持つのがコツ。



学校外の協力者に、「生徒のアイデアを聞きたい」という姿勢を持つことをお願いすることも大事!

チーム活動&クラス内発表(5コマ)



アイデアをどんどん
ふせんに書いて整理



わくわくワークシート《3》ふせんランキング★

《アクション2》に貼った「ふせん」のアイデアを仕分けしよう。

これは自信あり!!	ちょっと良いかも♪	ありきたり(普通)かな～
<p>1 防災絵を つくる!</p> <p>防災絵、1人あたり5枚程度、各グループに1枚ずつ</p> <p>被災した時に災害被害を軽減する</p> <p>2 防災ポスターを つくる</p> <p>ポスターはゲームなど、楽しくする</p> <p>ポスターが被災した時に、災害被害を軽減する</p> <p>ポスターは、被災した時に、災害被害を軽減する</p>	<p>1 非常食体験!</p> <p>小学校の給食で出る</p> <p>1週間、給食で非常食を食べる</p> <p>2 防災絵を つくる!</p> <p>防災絵、1人あたり5枚程度、各グループに1枚ずつ</p> <p>被災した時に災害被害を軽減する</p>	<p>1 防災絵を つくる!</p> <p>防災絵、1人あたり5枚程度、各グループに1枚ずつ</p> <p>被災した時に災害被害を軽減する</p> <p>2 防災ポスターを つくる</p> <p>ポスターはゲームなど、楽しくする</p> <p>ポスターが被災した時に、災害被害を軽減する</p> <p>ポスターは、被災した時に、災害被害を軽減する</p>

さんぽの
メロディで♪



～BOUSAI～
ボウサイ ボウサイ
ちゃんと準備しよう!
ぼうさい 大好き♡
どんどん そなえよう!
火災も 地震も
大丈夫!!
命は大切
みんなで守ろう!
ぼうさい 大好き! 防災!!
いまから 準備しよう!!

【ミッション1】

防災に関心を持ってくれる人がなかなか増えなくて困っています。どうすれば女子中高生も防災を「自分のこと」と考えて防災活動に参加してくれるようになるでしょうか？

例えば、「女子中学生も参加したくなる防災訓練」など楽しく魅力的でみんなが参加したくなる防災の提案をしてください。

【ミッション2】

なかなかみんな避難してくれなくて困っています。どうすれば、「これまで大きな災害は起きてないし、どうせまた大丈夫」「まさか自分が被災するわけない」と思っている人を、早い段階で避難させることができるでしょうか。

「避難するのが当たり前」「ぜひ避難しよう！」とみんなが思うようになるための面白いアイデアをぜひ教えてください。

社会科見学(11/16) @防災科学技術研究所



生徒から専門家へのプレゼンテーション
(上)／より良いアイデアにするための
グループディスカッションの様子(右)



◆発表テーマ：

A組「避難所マラソン」

「一人一人ができる防災」

B組「インスタ映えする防災グッズ」

「イケメン防災キャラクター」

C組「大人も子供もフレンドFestival」

(防災イベント)

「非常食をもっと身近に！非常食体験デー」

社会科見学後の感想文より

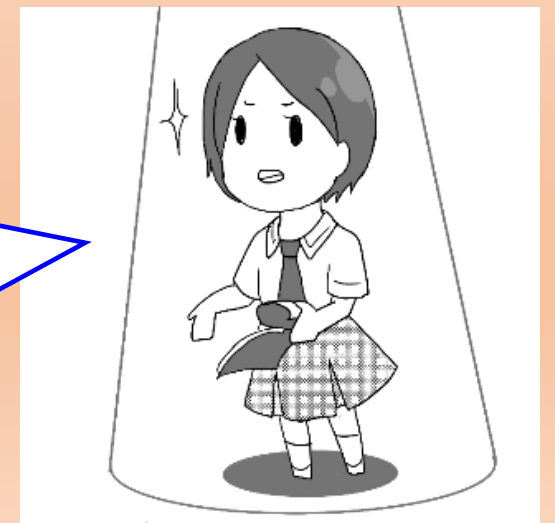
災害について知ることや防災についての良くない先入観を持たず、楽しく体験することの大切さを学びました。自分からも積極的に災害について学んで行きたいです。

私は、最初防災はつままないと思っていました。でも、班で色々な案を出し合った時はとても楽しかったです。

私は大人になっても防災の大切さを忘れずに生きていきたいと思います。そしてまた大人の方にプレゼンをする機会があればやってみたいなと思いました。

防災の大切さを子供から大人まで様々な世代に発信していきたいです。

防災はみんなで行うものです。一人ひとりが協力するから、いざというときに助け合っていけるということを忘れずに過ごしていきたいです。



中3「母子避難所」について考えよう！（社会・公民的分野）

災害対策課講演会



熊本地震
支援について



防災化授業 & ミッション

各単元を防災
視点で学ぶ。



授業で学んだ知識を
使って...

行政へのプレゼンテーション



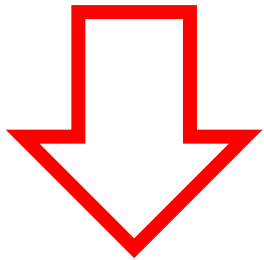
★母子避難所の提案（一例）：余震があっても避難しなければならないかもしれないので、入り口に近い場所を動くのが大変な妊婦さんに充てる／子供の遊び場やおしゃべりできるスペースを作り、ストレスをためない配慮をする／各部屋に親しみの持てる名前を付ける／赤ちゃんが夜泣きしたときに使用できる部屋／外国人への配慮のアイディア、など。

最初の防災教育

防災を**考える**

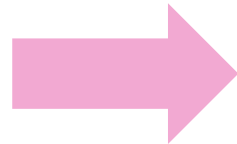


【生徒の認識】
「防災には**私たちの力**
が必要だ」



防災教育のサイクル

学びの社会還元



防災に対する
自主的・主体的態度

学ぶ・知る
体験する

考える・
発表する

社会の中で
活かされる

次は、生徒視点からの報告です！⇒

防災活動・ボランティア活動の基礎となる...

「被災地ボランティア研修」

二泊三日で宮城県を訪れ、生徒が主体的に活動する

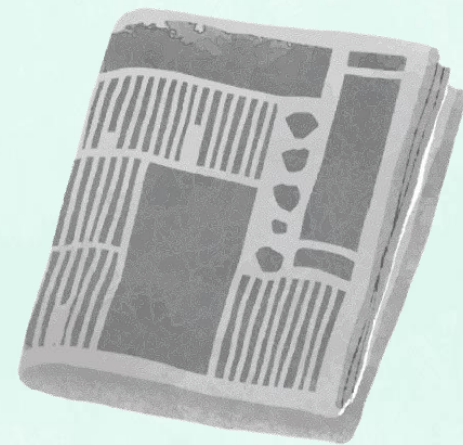
⇒荒浜中学校との交流会を企画運営



交流会・見学



テーマに沿ってディスカッション



新聞の取材を受ける経験も

被災地ボランティア研修から発展して...



ひまわりカフェの企画

生徒も
話し合いに
参加しました！



母子避難所訓練（12月）

大盛況でした♪



携帯トイレづくり
@防災エンスショー

希望者が
参加します。



救命技能講習への参加（9月）

災い転じて福と成す
被災地で忘れられない言葉



シンポジウムへの参加

東京の女子中高生が防災に取り組む意義

- ・これらの活動に誰でも参加できる
 - ・中高生だからこそできる活動がたくさんある
- ⇒自分達にできることは何か

将来進みたい道、やりたいこととの出会い

被災地訪問・支援活動

2年ぶりに熊本に
コースを戻しました。



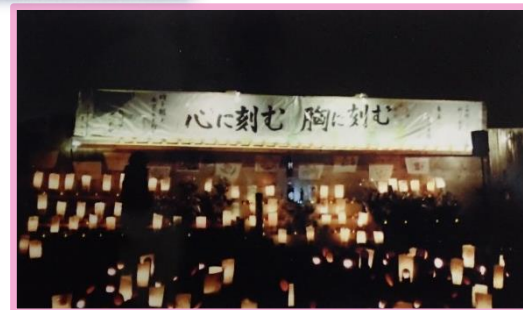
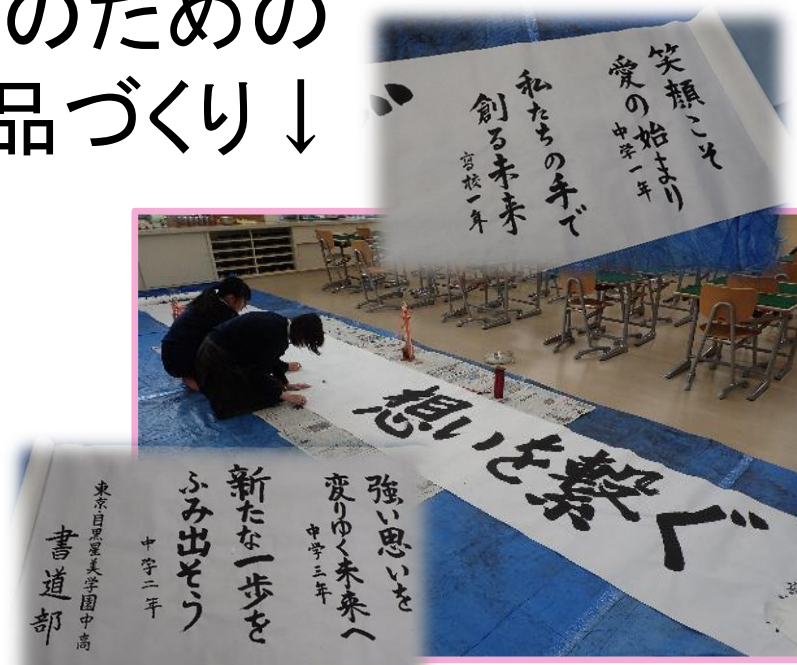
修学旅行での防災学習
@熊本市・益城町(5月)



被災地ボランティア研修
第14回(7月)・第15回(3月)

COMING SOON !

書道部による、3.11追悼
イベントのための
大型作品づくり↓

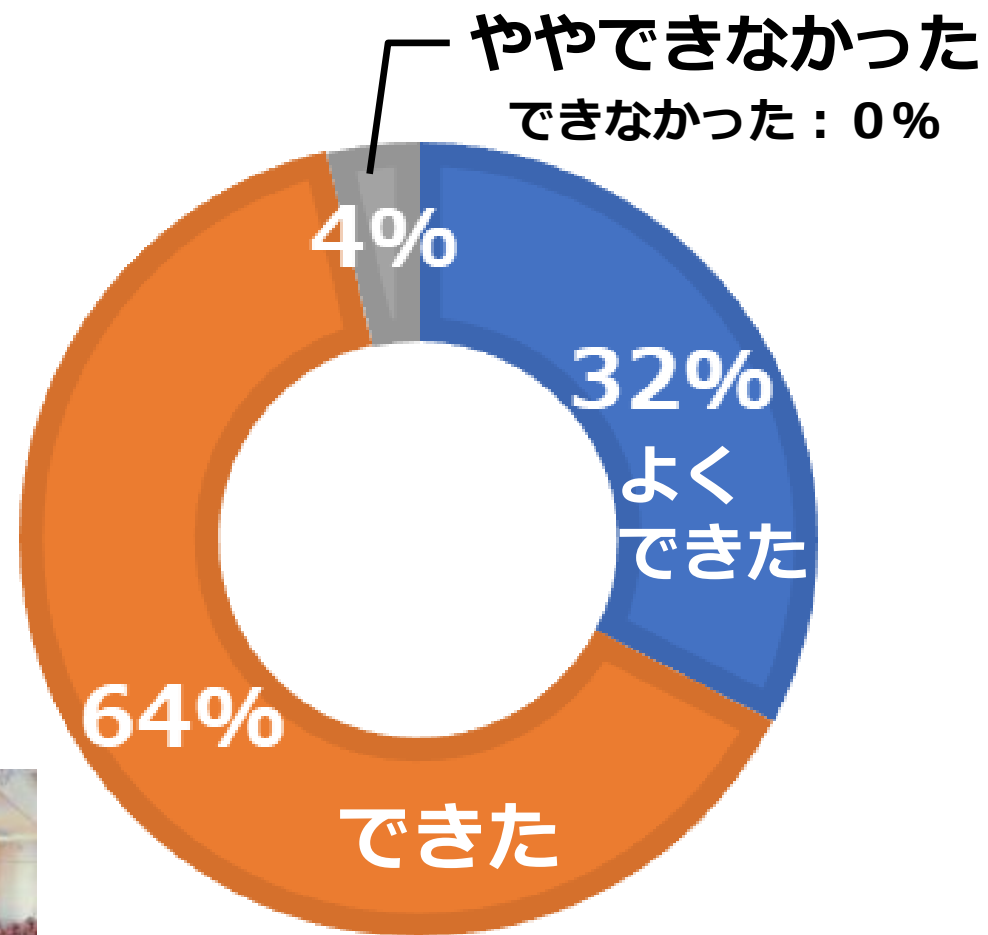


↑ 去年の様子@山元町

防災訓練・各種訓練

- ★高校生なので大人に頼らず、むしろ大人に頼られるような防災意識を持ちたいと思った。
- ★自分に足りないのは自分の考えで最善の行動をとる力だと思います。もっと対応力の高い人になれるように普段から災害を想定して行動できたら、防災減災にもつながると思います。
- ★今回は心構えができすぎた状態での訓練だったと思うので、もう少し事前に知らされる情報が少ない状態でやったほうが良いのではないかと感じました。

問. 防災訓練全体を振り返って、自分自身の行動を評価してください。



留学生がいるときに
緊急地震速報が…!



するどい指摘も…!



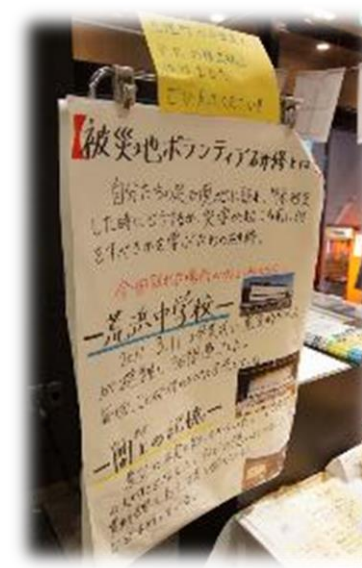
防災係がやり直し判定

生徒による発信活動

「伝えたい」という
思いをカタチにする



関心の持続・活動の継承



星美っ子出張販売

本日はご来店いただきありがとうございます。
少しでも私たちの活動を紹介させてください！

星美っ子出張販売のきっかけ

私たちの学校、日島星美学園では毎年春の2回、宮城県で被災地ボランティア研修を行っています。東日本大震災の翌年から始まり、今年14回目となるこの研修を通じて、「私たちも東震で出張したい」という生徒の声で「星美っ子出張販売」が始まりました。

活動内容

私たちは、この被災地ボランティア研修で出来た商品とともに、被災しながらも頑張る生産者の方の商品を販売・紹介しています。どうしてこの様な活動をしているかと言うと、多くの人たちに被災から7年経った今でもがんばる生産者の方々がいるということ。そして、宮城の名産品や皆さんが知らない宮城の魅力を知ってもらいたい！...という思いを持っているからです。どの商品も、それぞれの魅力があふれる商品となっています。私たちも自慢を持って運んだ商品ですので、きっと気に入っていただけると思います。

またのご来店お待ちしております！

Thank You!

2018/09/29,30

日島星美学園中学高等学校
〒127-0074
東京都品川区大井2-9-4
TEL 03(3416)1150/FAX 03(3416)3899
HP <http://www.meguroseibei.ed.jp/>

↑「第5回星美っ子出張販売」
宮城県のアナテナショップでの
復興支援イベント@池袋(9月)



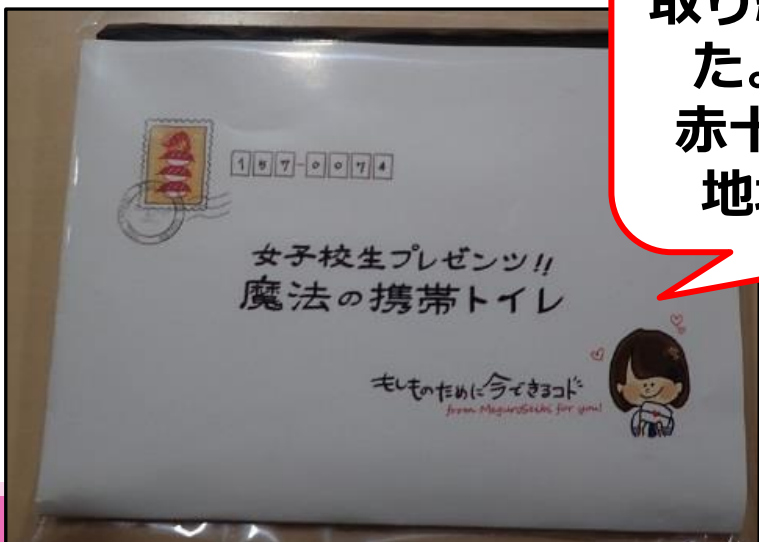
災害時のトイレ問題

コミュニケーションをとりながら、一緒に作成します。



新たなミッション！
マンホールトイレの
親しみやすいネーミングを考えました！

日本赤十字社東京都支部の
取り組みにも採用されまし
た。都内28の区・市の
赤十字ボランティアが、
地域での普及活動中！



災害時あんしん
マンホールトイレ



当施設には、災害時用トイレを備えております。

東松島市下水道課

ご清聴、ありがとうございました。



目黒星美学園中学高等学校